メーサイ市（タイ）に初のはしご車

タイ消防士が熱心に訓練

タイ・メーサイ市消防の災害防止・減災部長のポルンチャイ・プラディカイさん（45）と災害防止・救助担当のピヤ・カンタムンさん（34）の２人は、約1カ月の結城市滞在で、メーサイ市に寄贈されるはしご車の操縦訓練のほか、日本の消防のシステムやレスキュー技術などを学びました。

２人の来日の目的は、茨城国際親善厚生財団（IIFF）を通し、宇都宮市消防本部から寄贈されたΣ式はしご車の操縦訓練で、車のメカニズムからはしごの操縦、メンテナンスと多岐にわたって学びました。また、筑西広域消防本部と結城消防署の好意で、約1週間にわたって結城消防署の体験入署も行いました。

結城消防署では、レスキューの基本であるロープワークをみっちりと学びました。タイでも行われている基本の結び方に加え、ロープ一本で人を吊り上げたり、担いだりする方法も学びました。ビルの上からロープ一本で降下したり、ロープワークを駆使して人を運び上げる技術なども学びました。このほか、煙が充満する火災現場で、放水をどのように行うのかなど、日本の消防技術を熱心に学んでいました。

はしご車の訓練は、このはしご車を製造した日本機械工業の技術部、根本敏課長ら2人が結城を訪れ、2日間にわたり操縦訓練をしました。

基本的な操作方法から、センサーの場所や取扱いの注意点、安全の確認などを学び、みっちりとはしごの操縦訓練を繰り返しました。また、異常があった際の対処法や、完全手動での操作方法を学び、繰り返し訓練に励んでいました。

メーサイ市でのはしご車配備は、今回が初めてとなります。2人は「日本人はとても温かく、優しくしてもらった」と1カ月の感想を話していました。そしてはしご車については「とても自慢できる装備になります。メーサイ市は、ミャンマーやラオスと国境で接しています。今、ASEANの人たちは国境の行き来が活発になり、隣国の災害にも出動していきたいと思います」と話していました。

はしご車は９月にも出国の手続きを行い、タイに送る予定です。

平成26年９月１日